



本郷台中だより

～明日も行きたい本郷台中学校～

令和8年度第1号
令和8年4月20日
文京区立本郷台中学校
校長 工藤 邦彰

○自ら学び、考え、行動する生徒。 ○互いを思いやり、尊重し合える生徒。 ○豊かな心を持ち、心身ともに健康な生徒。

本郷の地で共に学ぶ

本年4月1日付にて、江熊 秀昭 第6代校長の後任として着任しました、工藤 邦彰（くどう くにあき）と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

令和8年度は新入生88名を迎え、全校生徒259名でスタートしています。着任式と入学式では、私が校長として大切にしていることを生徒のみなさんに伝えました。学校だより第1号の本号では、私の想いを知ってほしいとの願いを込めて、入学式の式辞の一部を掲載いたします。生徒のみなさんも改めて読み、志を同じくして共に学んでくれることを期待しています。

新入生の皆さん、ご入学、おめでとうございます。

今日から通う本郷台中学校は、この日本でも有数の学びの聖地とも言える本郷の街にあります。この本郷は、夏目漱石や樋口一葉といった文豪ゆかりの地であり、すぐそばには日本の叡智を結集する東京大学があります。

この歴史と知性に溢れた本郷の地で中学校生活をスタートする皆さんに、私が大切にしてほしいと考えていることを、三つ、お話します。

一つ、授業のある日は、毎日、学校に来よう。

今日から始まる三年間は、皆さんが大きく成長する、とても楽しい日々がほとんどです。でも、もしかしたら、学校に来るのが辛い日もあるかもしれない。その辛い理由は、学校にあるかもしれない。それでも私は、学校に来てほしいと願っています。それは、あなたの力になる人が、この学校にいるからです。それは今、横にいる友達かもしれないし、皆さんの後ろにいる先輩かもしれないし、学校の先生や職員かもしれない。必ず、あなたの力になる人がいる。自分一人だけで考えるのではなくて、誰かを頼ろう。その誰かが、この学校にいます。だから、学校に来よう。風邪を引いてしまった、大怪我をして物理的に登校できない、といった訳でもないのであれば、ちょっと遅れてでも良いから、学校に来よう。私は、あなたと会えることを願い、明日も学校で待っています。

一つ、「なぜ、どうして」を考えよう。

この本郷は、多くの偉人が真理を追求した街です。学校で教えられたことをそのまま憶えるのではなくて、「なぜ、どうして」を考えるようにしよう。今、世の中ではAIがすすまじい勢いで発達しています。でもAIはBIGデータから流行を抽出している側面があり、間違った情報であっても、そのとき流行していれば、一つの解として選び出してしまいます。その間違いに気付くためにも「なぜ、どうして」を考えることが、これから生きていく上で重要なのです。自分から進んで情報を集め、考え、判断して行動しましょう。

一つ、互いを思いやり、互いの考えを尊重しよう。

この本郷は、歴史と伝統を守り続ける人たちと、時代の最先端に行く人たちが共存する街です。学校も同じです。自分とは異なる考えや個性をもった人がたくさんいます。「自分とは違うから」と遠ざけるのではなく、相手にはそう考える背景がある、と、思いを巡らせることが大切です。「あなたの考えを捨てて、相手に合わせろ」と言うのではありません。自分の考えを大切に、相手の考えも大切にする事で生まれる「納得解」を探し続ける努力をしていきましょう。

この三つを大切にしてほしいと考えています。時には、うまくいかないこともあります。でも、学校は失敗するところです。何度間違えても良いのです。学校に来て、真理を追求して、互いを思いやって、そしてみんなで幸せを築いていこう。あなたも今日から、この本郷台中学校の大切な仲間です。

学校HP「本郷台中日記」をほぼ毎日更新し、日々の様子をお伝えしています。是非ご覧下さい！